



＝ 第5号 ＝  
2022年5月27日  
新庄北高校  
進路指導課発行

知識ゼロから  
分かる

## 志望理由書の書き方 スペシャル【門外不出(全校配布しているが)】

3年生の中には、春休み中に担任と面談をし、いち早く推薦準備に動いている生徒もいるようです。入試の方法に関わらず、必ず必要となってくる「志望理由書」について、SPECIAL版でまとめました。

### ■自分をその大学（学校）に突き動かすものは何か■

実際の試験では、この点が大きな点数差となります。志望理由書では文章、面接では言葉と表情で試験官に伝えなければいけないことです。結局は志望理由書も「自分が考えていること」を表現したらいいのですが、多くの生徒は「何を書いたらいいんですか？」と頭を悩ませます。悩んだあなた、以下の視点で整理してみてください。

- ①きっかけは何か。(経験・体験)
- ②自分が学びたい学問や就きたい職業が、どんなものであると認識しているか。(きっかけになった経験に対し何を感じ、何を考えたか)
- ③将来どんな風に役立てたいか。また、将来その学問を通して何をしたいか。
- ④自分が向いていると思われる点。
- ⑤その学問や目指している職業のどのような点に魅力があると考えているか。

### ■「きっかけ&決意」→「考え」→「どうしたいか」の形■

(1) まずは・・・

志望理由書を書くために、指導する教員や担任と何度も面談をして、書くことの発見&整理が必要です。そして「知識(経験知)」を身に付けることも大切です。図書館で関連する本を借りる、「現場」を訪ねてインタビューする、専門家に聞く・・・自分で集めた知識は、入試に関わらず、自分の考えを形作る要素になります。志望理由書を作成しながらの作業です。

(2) 次に・・・

志望理由書には「形」があります。「型にはまらない方が・・・」や「受験生の個性が無くなる」などと、昨今流行りの「個性重視」のコメントを発する人もいますが、それは間違いです。

**志望理由書は読んでもらうものです。だから、読みやすい「形」に。**

※個性を出すのは、文の「内容」、面接なら「表情」と「言葉」。

その形は、字数に関係なく「きっかけ&決意」→「考え」→「どうしたいか」。3つのパートにわけ書きます。どんな学部を目指すにしても、同じ形が基本です。

(3) さらに・・・

高校生が書くと、どうしても内容が薄くなってしまふのは、「考え」です。〇〇という事象は、▲▲だと考える・・・。▲▲が書けない、内容が稚拙な生徒が大半です。それは、▲▲にたどり着くための知識が不足しているからです。 ※基礎基本の習得に繋がらない対話的学習（「作業式AL」と名付けたい）が全国的に問題となっているのも原因は同じです。

入試の現場では、知識を基盤とした考え（考察力）に点を付けます。そして、この力がある生徒と話した時、「あっ、この子賢いな」と感じます。だから、ここが「山場」であり「肝」。

(4) 最後に・・・

忘れがちなのが、「アドミッションポリシー（AP）との整合性」です。入学者受け入れ方針、という意味ですが、もっと分かりやすく言えば「こんな生徒が欲しい」。どの大学も工夫を凝らして作成しています。抽象的な表現や、似たような文言が多いのも特徴です。受験生の中には、各大学の募集要項の文言をコピーしてくる人もいますが、そうではない。なぜ、APが抽象的に書いてあるのか。それは、受験生の多様性を見るためです。多様性は、「何がしたいか」の具体性でみています。それが「整合性」にも繋がります。つまり、コピペでは突破できない。

## ■先輩の書いたものから、多くを学ぶ■

先輩方(特に合格を勝ち取った)がどんな志望理由書を書いたのか、とても気になると思います。進路指導課では約10年分ほどストックしています。ぜひ読みにきてください。そして、今回はそんな先輩方のものから、「形」を学んで欲しいと思います。何パターンか、分野別に紹介します。

### 3年生のみなさん、頑張って、一読してください。

#### 【パターン1 短い(400字)の志望理由書】

貴学の学生が製作した建築模型を間近で見た時、「これを作りたい」と心から思いました。小さな頃から模型好きだったこともあり、この出会いは「建築・デザインを学ぶ」「一級建築士」を目指すきっかけとなりました。

きっかけ  
& 決意

四季が明瞭な山形の建築物や町並みをフィールドにして学べるのが大きな理由です。特に最上地方における住宅や景観には興味があります。山形県の統計によると、積雪量の少ない県内市町村と新庄市の年間の新設住宅着工件数には、人口の差以上に大きなひらきがあることが分かりました。私には、「雪と共存できる町・家づくり」という夢があります。積雪量の少ない場所を求め、地元を去ってゆく現状を改善する鍵が建築にはあるはずで。

考え

建築模型の製作を通し、夢や理想を具体的な形にするための建築の知識が学べ、地域にあった県内の工夫あふれる建築物を実際に自分の目で見る経験ができる貴学の学びは、必ず将来に繋がると考え志望しました。

どう  
したいか

## 【パターン2 文系学部が多い、実学志向（社会で活躍）の大学の志望理由書（1000字）】

私は大学時代に培った力を基礎に、地方自治体の改革、活性化に取り組みたいと考えています。貴学部出身の〇〇〇氏は、私が住む山形県〇〇市で27年間にわたって首長をつとめ、山間部の農村を「誇れるふるさと」へと変えました。特に全国の地方自治体で始めて〇〇〇条例を制定したことは、地方から国全体に大きな影響をあたえた事例として知られています。「地方が変われば国も変わる」ことを体現した政策であると考えます。大学時代に身に付けた教養や交友関係を最大限に発揮するその姿に憧れました。

私は将来、総務省の職員となり、都市の発展に伴う地方の衰退に歯止めをかけたいと考えています。現在日本は、急速に少子高齢化や過疎化が進んでおり、私の生まれ育った山形県内でも維持が困難になっている市町村が多くあります。地方公務員である父が、「地方公務員にできることは限られているな」と述べていたのが印象に残っています。地方の消滅が騒がれる中で、国家主導で地方制度を見直していくことが必要であると考えようになりました。町づくりや村おこしといった取り組みが全国各地で取り組まれています。人手不足、財源不足の中では、昔と同じような取り組みはなかなか難しいと考えます。だからこそ、国の政策によって、地方を変えることが急務であると考えます。総務省自治行政局が取り組む「地域おこし協力隊」は、成功した実践例だと考えます。地域力の維持・強化だけでなく、地域の活性化から国の発展につながる活動の1つです。国政に活躍の場をうつし、国の中心から地方を改革する立場にいた〇〇〇氏のように、住民が活気をもった自治体をさらに拡大していきたいという夢があります。

地方活性化や地方創生における様々な課題は、政治と経済が絡み合っています。貴学では公共政策科目に力を入れ、行政学や地方自治政策を通じたローカル分野だけでなく、国際行政学などを通じたグローバルな視点も学び、これからの地方自治の姿や考え方、方策を研究したいと考えています。地域ごとの政治を比較して分析することや、他県、他国出身の人たちとの学び合いにも取り組んでいきたいです。私の目標は、国家公務員の立場から地方に光をあて、地方自治体を成長させることです。そのために、政治、経済分野のリーダーを多く輩出する貴学で、仲間と高め合い、自分自身を磨いていきたいと考え志望しました。

※3段落構成。それぞれの段落ごとに3パターンです。

## 【パターン3 項目で分けられている大学の志望理由書】

### 1 なぜ〇〇〇大学なのか？

世界に通用する「和」のフードビジネス。それが私の夢です。そのために「実践的な経営学」を学び、社会の即戦力となる人になりたいと考えています。貴学ではその夢を実現するための知識や経験が積める充実した環境が揃っていると感じました。産・官・学・地域との連携に積極的であること、大学に居ながら企業との交流と社会との関わりが積極的に行えることなどはとても魅力に感じました。学びを通じて社会と企業の間を知り、実りの多い経験が積み、夢の実現の基礎を築けるのは貴学しかないと考えます。常に新鮮で新たな取組のなか、国際水準に近い高いレベルの中で勉学できる事は私自身にいい刺激になるはずです。

また新産業の創出にも積極的であることにも強い魅力を感じました。自分が目指す独創的な経営のヒントになるものを4年間を通して得ることができるはず。これまでにないビジネスに挑戦できる「基盤」と「アイデア」を学べると感じました。そして大学の学びと自分の夢をつなぐ手段としてインターンシップ・ゼミナール大会・テクニカルビジットといった独自の取組に積極的に参加し、コミュニケーション能力などを向上させたいと考えています。「実践的な経営学」が学べ、自分を高めることができ、仲間と刺激し合える場は貴学しかないと考えます。

## 2 大学で学びたいこと

私自身が「社会」に近づく学び、「夢」に近づく学びの2つをしたいと考えています。1つは「実践的な経営学」を学びたいです。将来の夢を視野に入れて、「実践的な」活動が出来るインターンシップとテクニカルビジットは最も魅力ある活動です。実践的とは、それらの学びを通し、コミュニケーション能力の向上と適応能力の向上ができる学びです。またゼミナール大会に参加し、同じ学部と同世代の人の意見を積極的に聞き、自分の意見との相違点や類似点を知り、自分の力に変えられるチャンスにしたいと考えます。同じ夢を持った人たちと意見をぶつけ合うことで、同世代の仲間と切磋琢磨しお互いが成長できるはずです。

2つは貴学の◆◆◆教授の著書にあった「食文化創造とグローバル戦略」についてぜひ学びたいと考えています。私は世界に通用するフードビジネスを目指しています。異文化理解を基とした経営学、充実した国際マネジメントについての学び、などは必ず「生きた知識」となるはず。グループ研究や卒業研究などといった取組では社会により近い研究をしてみたいです。

## 3 将来の展望、大学卒業後はどうするか。

私はフードビジネスの企業を起ち上げたい。そしてその企業を世界で通用する多国籍企業へのしあげたい。不況の中でも国内の人達に希望を与えられるようなそんな企業にしたいと考えています。そのためにまず経営学を学び、フードビジネスで活躍する企業に就職することです。そこではフィロソフィー（理念）とプロセス（過程）について学びたいと考えています。必ず会社には経営理念があり、その経営理念に辿り着くまでの過程があると思います。私は企業へ就職し、社会の中で自分が成長するためのたくさんのことを吸収したいと考えています。具体的には、世界で活躍する企業での仕入れ方法、店舗の立地展開などはその企業にしか出来ない手法や理念があると考えています。目標とするのは、貴学出身の◇◇◇食品創業者〇〇〇〇さんです。◇◇◇食品の経営理念の中に食創為世（しょくそういせい）という言葉があります。企業は常に革新的な発想の下新しい物を創造し、世のために尽くすという意味です。この言葉は常に世のため人のためを思うことでしか達成できないことです。私の目標でもある国内の人達に希望を与えられる企業にするためにこのような経営理念を学びたいと考えています。

私が目指すフードビジネスとは日本の文化、伝統を織り込み「和」を基盤にした料理を出す店を展開していくことです。日本人向けに新たな和食の創作に取り組むのはもちろんのこと、世界に日本の「和」の伝統、文化を広めることができる和食料理店にしたいです。

## **書**けるかな・・・と不安になった3年生へ

あなたは、絶対に書けます。その理由は**この先輩方も、あなたと同じだったから**です。この先輩方の志望理由書には、読む人を惹きつける力があります。読んでいて感じたと思います。「この人魅力的だ」と。会ったこともない人に憧れに近いもの持ったのではないのでしょうか。それを「可能性」と言います。志望理由書とは「自分の可能性（伸びしろ）」を語る場です。**先輩にあって、あなたに可能性がないわけがない。**だから、絶対に書けます。

それでも、不安だ、結局何をしたらいいかわからない、という3年生もいるかと思いますが、**担任の先生に相談しましょう。**不安や不満を言っても周りは変わりません。受験生が変えることができる唯一のものは「自分」です。自分が変わるから、世界が変わる。そんな「常に前を向ける姿勢」の1つの形が志望理由書です。・・・ちょっと名言過ぎました。とにかく、**3年生、頑張ろうぜ！！**